

十坪住宅「徳島路太利」 現地ガイドボランティア始まる



ハンセンボランティア ニュース

第38号

ゆい・結

結・YUI

2023年10月1日 発行
ゆいの会事務局
岡山市北区弓之町1-17 五藤ビル4階
山本勝敏法律事務所内
電話 (086) 234-1711
FAX (086) 234-8696
編集 則武 透



ゆいの会
ハンセンボランティア

【巻頭言】

一般社団法人ハンセンボランティアゆいの会は、来年3月には発足20周年を迎えます。当会は、2004年3月に、ハンセンボランティア「ゆいの会」として発足し、ハンセン病国賠訴訟瀬戸内弁護団や岡山県医療ソーシャルワーカー協会の有志が、岡山県にある2つの国立療養所の長島愛生園と邑久光明園の入所者の方々の社会復帰支援、入所者の方々と市民との交流支援、市民への人権啓発を目的として、療養所、入所者自治会、地元自治体等と連携しながら、これまで20年にわたり、ハンセン病問題に関わった活動を継続することができたことは、当会および会員にとってかけがえのない大きな宝です。当会については、ハンセン病市民学会教育部会編の『ハンセン病問題から学び、伝える 差別のない社会をつくる人権教育』（清水書院）においても紹介していますので、ぜひご覧ください。

現在、全国13か所の国立ハンセン病療養所を巡る切実な課題が沢山あります。以下では4点に絞って述べます。1点目は、全国13か所の国立療養所の令和5年5月1日現在の入所者数は82名、平均年齢は87.9歳であり、入所者の高齢化と減少が進むとともに、医療・看護・介護の体制維持がきわめて切実な問題となっています。さらにコロナ禍において入所者の命を守るという問題も重要な課題となっていることです。2点目は、ハンセン病療養所入所者自治会は、これまで長年にわたり、入所者の人権を守るために活動

してきましたが、その活動を維持することが次第に困難となつてきています。そこで自治会の役割を補完するために各療養所に設置されている人権擁護委員会の役割が一層重要となつてきており、その真価が問われていることです。3点目は、わが国のハンセン病隔離政策の歴史とそれでは人権を守るために闘ってきた入所者の姿を後世に語り継ぎ、人権教育の場として全てのハンセン病療養所を永久に保存するとともに療養所内に残る歴史的建造物・史跡を永久に保存管理することが強く求められていることです。4点目は、ハンセン病療養所に残る行政文書を含む公文書等を永久に長期保存し、後の世代においても利用可能とするために、適正に管理・保存していくための法制度構築が喫緊の課題となっていることです。

当会は、従来からの入所者の個別の要望に応じたボランティア活動を継続するとともに、今年9月からは、入所者や市民の方々の募金により2020年に修復工事を終えた長島愛生園に残る十坪住宅「徳島路太利」において、月1回、会員がボランティアガイドを始めました。さらに、現在、邑久光明園では、園内に歴史的建物・史跡保存ワーキンググループを組織し、厚生労働省に対して、療養所に収容された子どもたちが集団生活をした全国の療養所で唯一現存する「少年少女舎」の保存を要求する動きが始まっており、当会としても、こうした入所者の運動にも積極的に関わっていきたいと考えています。

（代表理事 近藤 剛）

第20回 ハンセンボランティア養成講座を開催 ～20人が受講～

開催日時	テーマ・講師	場所
7月15日（土） 13:00～ ① 13:00～14:20 ② 14:30～15:30	【講座Ⅰ】 ○開会挨拶 ゆいの会会長 近藤 剛 ①「ハンセン病問題の歴史と人権について」 講師／ゆいの会会長 近藤 剛 ②ゆいの会オリエンテーション、実践報告 グループワーク	きらめきプラザ7階 707号室 岡山市北区南方2-13-1
7月22日（土） ③ 10:00～11:00 ④ 11:10～12:10 ⑤ 13:00～15:00 ⑥ 15:00～16:00 ～16:00	【講座Ⅱ】 ③「入所者との交流」 担当 入所者自治会から ④「ハンセン病とは」 講師／邑久光明園園長 青木 美憲 氏 ⑤邑久光明園内フィールドワーク 案内役 ゆいの会会員ほか ⑥講座修了式、修了者との交流会 ○閉会	邑久光明園 社会交流会館1階 会議室ほか



●十坪住宅「徳島路太利」 現地ガイドボランティアを募集中！

毎月1回、現地ガイドボランティアを行うことになりまりました（定期的な清掃も兼ねています）。日程等詳細はメンバーリストでご案内します。ぜひ、多くの方にご参加いただければ幸いです。

●十坪住宅動画完成のお知らせ

ゆいの会では十坪住宅「徳島路太利」の説明ビデオを作成しました（Youtube. 4分42秒）。ハンセン病隔離政策の歴史と十坪住宅が建てられた経緯について解説しています。ぜひ、ご覧ください。

●ゆいの会ホームページを開設しました

ゆいの会ではことし1月、ホームページを開設しました。

<https://hansen-yuinokai.com/>

QRコード 十坪住宅動画



（字幕あり）



（字幕なし）

最新情報・ブログと、少しずつ情報発信していきたいと思います。

ぜひ、多くの方にご紹介ください。

（QRコード ゆいの会 HP）



令和5年度総会報告総会

2023年4月15日（日）午前10時から11時までの間、長島愛生園事務本館2階大会議室で令和5年度総会と研修会を開催しました。議決権を持つ正社員46名中、出席者22名、委任状出席者15名でした。



総会では、企画部局、傾聴ボランティア、個別ボランティア、広報部からそれぞれ前年度活動が報告され承認されました。これに続いて前年度決算報告、監査報告、役員改選、本年度活動方針、予算がそれぞれ承認されました。

ゆいの会では、本年1月よりホームページを開設・運営しており、岡山第一ビデオに依頼して十坪住宅「路太利」映像ソフトの作成作業も行ってきました。新型コロナウイルスの五類移行に伴い、本年度は映像ソフトの完成とホームページ掲載、十坪住宅「路太利」ガイドボランティアの実施などを核とした活動に取り組むことにしています。皆様には色々なボランティアメニューをご紹介しますので、気軽にご参加いただければ幸いです。



総会後は、戦前、ハンセン病隔離政策に反対して外来治療を実践し、昭和16年にハンセン病学会において異端の説とされて学会での立場を失った京都大学皮膚科特別研究室主任小笠原登を描いたDVD「一人になる」を鑑賞しました。現在では、小笠原が主張したハンセン病は免疫疾患を持つ人がかかりやすい感染症であることが明らかになっていないか残念でありません。

（事務局局長 山本勝敏）

ハンセンボランティアニュース 結・ゆい・Yui 第38号

目次

1. 巻頭言	1
2. 令和5年度総会報告	2
3. ボランティア活動報告	3
邑久光明園映画ボランティア	
4. 第20回ハンセンボランティア養成講座	4

十坪住宅動画（字幕あり・なし）
ゆいの会 ホームページ開設



ボランティア活動報告

●邑久光明園映画会ボランティアに参加しました

【第1回】

当日の上映映画は、オードリー・ヘプバーンの『麗しのサブリナ』でした。
5月27日（土）の午後1時30分の休憩があり、20名近く入所者の人たちを2名のスタッフのもと、サポートするボランティア見習いで参加しました。
『麗しのサブリナ』は1954年に公開されたアメリカのロマンティックコメディ映画です。監督は、ビリー・ワイルダー監督が映画化しました。



『ローマの休日』に続くオードリー・ヘプバーンのヒット作です。

話題はファッションの最先端となったジバンシィのサブリナパンツです。内容は、大富豪の家に仕える運転手の娘が、パリで修行した後に洗練されたレディとなって戻り、富豪の兄弟とロミカルな恋愛模様を繰り広げます。恋の相手をボギーことハンフリー・ボガートと、ウィリアム・ホールデンが演じます。磨きのかかった素敵な女性に変身したジバンシィのスタイリッシュなコートを着た25歳のオードリー・ヘプバーンの姿は素敵でした。

また、今回は、オードリー・ヘプバーンの『ローマの休日』の上映があったようです。上映内容は、入所者の希望で決めていくとのことでした。

【第2回】

第2回は、7月29日（土）午後2時に邑久光明園総合診療棟1階福祉課に集合したあと、映画が上映されるふれあいホールに移動しました。

上映映画は「大阪ざらい物語」です。人間への熱いまなざしと思いやりに



満ち満ちた懐かしい芸人の藤山寛美の登場です、昭和を代表する喜劇役者藤山寛美の当たり役として昭和58年8月に新橋演舞場で行われた舞台のDVDを皆さんと楽しみました。

映画の舞台は大阪の老舗どころ船場の「河内屋」です。河内屋の次男の栄二郎（藤山寛美）が恋をしますが、その相手は女中のお八重（酒井光子）で常識を破って実った恋ですが、それにはドタバタな様々な喜劇が展開されます。笑いのうちにあつという間の2時間でした。

主人公の藤山寛美（ふじやま かんじ）、本名：稲垣 完治（いながき かんじ）、1929年から1990年は、日本の喜劇役者です。戦後昭和の上方喜劇界を代表する松竹新喜劇役者として活躍をして、数多くの名作を残しました。

上映後、ボランティアが終わったの記念撮影です。

また、次回の映画ボランティアの案内があったら、交流の映画を観る体験を楽しみにしようと、後にしました。
（理事 正田邦男）

今回、上映された「大阪ざらい物語」は、昔、テレビで毎週放送されていたとのこと、入所者の皆さんに好評だったと、上映後、職員の方から聞きました。入所者の皆さんにとって懐かしく思い出深い作品だったのだと思います。入所者の皆さんと直接お話をすることは出来なかったのですが、同じ空間でひと時を過ごせた事がとても良い経験になったと思っています。

今年のボランティア養成講座から会員になり、まだまだハンセン病の歴史等について分からない事がたくさんありますが、ゆいの会の活動を通じて、少しずつ知っていけたら良いなと思っています。

（20期生 山本暖）

